
17. 「弘前市茂森町」の参加型まちづくり（第5回助成対象）

アカンサス
(青森県弘前市)

I. 活動の背景と目的

弘前市は青森県津軽地方の中心都市であり、城下町としての風情を残す歴史のある町です。

茂森町は、弘前城跡である弘前公園と津軽藩の菩提寺である長勝寺を中心とした禅寺が並ぶ禅林街との間に位置し、かつては門前町として非常に栄えた町でした。

しかし時代とともに昔からの商店は駐車場やアパートに様変わりし、町が持っていた歴史的な雰囲気は失われていく状況にありました。

このような中で、自分達の町に対しての危機意識を持つ有志達により、活性化について話し合う「まちづくり活動」の芽がでてきていました。

しかし意欲はあるものの、その活動方法や資金などについては未知数であり、具体的な活動には至っていない状況でした。

アカンサスは、かねてから「住民参加型まちづくり」についてヒアリング調査などを行い、市民活動が成熟していない地方都市においては、人材・資金・情報を有機的につなげる第3セクター的な仲介組織が必要であると考えていたことから、協力要請に応え、茂森町のグループに対してサブインターメディアリイヤーとしての支援を実践することとしました。

II. 活動の内容

1. 重森会の設立

アカンサスと地元有志との懇談を重ねた結果、まちづくり活動の方向性として、活動に先駆け組織づくりをすることになりました。

組織づくりは、有志が発起人となって進められ、地元では設立趣意書を町内に配布し、賛同者を募ることになりました。アカンサスはアドバイザーという立場で、組織形状や規約について他の事例を紹介するとともに、活動案として、アンケート調査、茂森の今昔、茂森町の宝探し、町内会との交流、ワークショップ開催、設計コンペ、住民と行政との交流会、茂森アルバムの作成、また会議の場所、運営費の調達、広報等幅広い提案を行いました。

平成9年10月13日、重森会の設立総会が開催され、構成メンバーは地元町内会長を代表とし、商工関係者、ねぶたの会、町内会役員等を発起人として旗揚げしました。会の名称は、歴史的な由来と2つの町内会に跨ることから「重森会」となりました。

2. 町並み見学会



重森会の事務局がある成豊酒店

「重森会」の発足を機に会で活動を検討し、アカンサスは、その支援をすることにしました。

最初の活動は、会の認知度を高める主旨から、先進事例の見学会、町の歴史勉強会、講演会などの取り組みやすい活動を紹介しました。

会では、住民の参加が得られやすいものとして見学会について実施したい意向を示しました。

同時に、見学場所についての助言を求められたため、バス移動が可能な県内及び隣県のエリアの中で、まちの再生を果たした所をピックアップし、最終的に盛岡市材木町商店街を選定しました。

アカンサスでは、材木町の連絡調整を行うとともに、参加者の費用負担を軽減するために、費用の一部を支援することにしました。

6月28日の見学会では、大型バス1台に38人うち24名が商店のおかみさん達という心強い参加者を乗せ出発、盛岡までの2時間の道中、代表が「重森会」の発足の経緯や趣旨について説明し理解を求めました。

現地では、材木町の会長から、これまでの経緯と実績について説得力のある説明がありました。



材木町視察

特に「店主はサラリーマンよりもかせぐこと」「祭り（市）をつくること」「役所と仲良くして強力に支援を求めること」そして「役所まかせではなく、自分達がつくるまちづくり」をしなければならぬということを力説していました。また、「策がないのならこの材木町を手本にしてほしい」という激励を受け、再生した町並みや店構えを見学し終了しました。

3. 懇談（感想会）

7月22日、見学についての感想会を行いました。

事業手法などの質問から、茂森町ならではのアイデアなどの意見が出され、まちづくりについての機運、共感の盛り上がりが見られた一方で、材木町の例から、まちづくりにはかなりのエネルギーと覚悟が必要だと感じ取ったようで、今後の活動についての消極的な意見も出されました。

総意として、まちを考えていくことについては賛同を得られました。ただし、じっくり時間をおいて、無理なく小さくてもできることからこつこつという姿勢で望むことが共通の認識でした。

また、今後の活動として、以前アカンサスから提案して「昔の茂森町」、お年寄りの話や昔の写真によるまちの歴史勉強会を行う方針を決めました。

III. 活動の課題と今後の方針

我々は、地元のまちづくり有志と茂森町のまちづくりについて、地元が中心となって活動を行うことを前提に何度も懇談を繰り返してきました。重森会が設立された時は、その趣旨に町内会などの各団体の代表者が賛同したことから、順調にその活動が進むものと考えていました。しかし、実態は昔ながらの町内会という大きな組織が、新しいまちづくり

の組織を受け入れることができず、重森会の活動が進まなくなりました。それは表面的な賛成だったのか人間関係なのか原因は分かりませんが、町内会との調整がうまくいかないとまちづくり活動に大きな影響があることだけは実感したところです。また、アカンサスのメンバーのほとんどが県庁職員であることから、サブインターメディアリーというよりは役所の人と認識され、アカンサスの立場を理解してもらえなかったのではないかという感じもしました。

そのような中、何か少しづつでも地元住民の意識を一つにまとめる必要があると考え、第1段階として盛岡市材木町商店街へ見学に行き、今後の活動について幾度か話し合いを行ってきましたが、実行されないまま次の活動に結びつかない状況が続いていました。今年の3月はじめに、ようやく地元のまちづくり有志のみで話し合いがもたれ、「このままではいけない。徐々にでもよいから何かやろう」ということで、「地元で多少時間がかかるかもしれないが、自ら考えてから、アカンサスと行動したい」旨連絡が入ったところです。



懇話会

我々のいままでの茂森町に関連した活動を通して、以下の点について今後検討していかなければならないと考えているところです。

- ・まちづくりグループと町内会、ねぶたの会、商工会などの各団体とのネットワーク形成
- ・まちづくりグループのリーダー発掘（実践的リーダーの発掘）
- ・まちづくりグループのしっかりした事務局の形成
- ・サブインターメディアリーとしてアカンサスが活動できる環境づくり

いずれにしても、自分たちのまちづくりをどうしていくのかという問題は、そこに住んでいる住民の共通問題であり、アカンサスとしては、これまでどおり、サブインターメディアリーとして、側面的な支援を地道にやって行こうと考えています。